令和８年（２０２６年）
１０月１５日　第１１号
多賀町立大滝小学校
文責：校長　豊原　豪

学校だより 輝く 大滝

～もう一歩前へ、もう一段上へ～

令和９年は創立140年

シリーズ；学習で感じること②～言葉遣い～

子どもたちは、「若者言葉」と言われている

「***やばい・うざい・無理・死ね・きしょい・ダル・マジ終わった・消えろ・死にたい***。」

だけで、会話した気になっていませんか？

ある事例　（学校だよりの紙面の関係から内容を省略して概要を記載しています。）

ある小学校家庭科の調理実習でパスタを作っています。
Ａさんが、トマトのヘタの部分まで、誤って煮込んでしまいました。

グループの友達の反応が、
「きしょ。」
「こいつ、ヤバ。」
「マジ終わった。」

言われたＡさんは、しばらく後、不登校になりました･･･。

トマトのヘタを煮込んでも「気色悪い」ことはありません。Ａさんが「ヤバい人」でもありません。これで「全てが終わった」わけでもありません。

子どもたちがこういった表現をするのは、「ＳＮＳや大人の影響」で、
子どもたちが、「Ａさんを傷つけている意識は低い」と考えられます。
しかし、言われた側は、たまったものではありません。
そして、乱暴なことばを使う無思慮な児童こそ、今後、特に生きづらくなるのです。

（引用「ことばで伝える」ができない子どもたち　著書　石井光太　日本実業出版社）

日本語は、非常に繊細で、同じ言葉でも多くの意味を持つものがあります。
例えば；ふるえる･･･①怖（こわ）い、②寒（さむ）い、③素晴（すば）らしい、④怒（いか）り
国語の読み物に、「～〇〇で震（ふる）えた。」と書いてあったら、①②③④のどれか、またはそれ以外を想像し、物語に没入する必要があるわけです。脳の活動として、とても大切です。

生きて行くには、他者と揉めたり、他者を心配したり、自分が挫折したり、さまざまなことが起こります。小学校・中学校と成長するにつれて、言葉で複雑な人間関係を築き大人になります。
小学校の６年間で、「教科書が読める、繊細なことばが使える」児童に育てたいものです。

現代は、「子どもが変わった」のではなく「子どもを取り巻く環境が変わった」のでしょう。



５年生の夏休みの
作品展示です



全学年で栗拾いをしました。希望者は２度目も行いました。（写真は低学年）



高取山で採取されたヘビの抜け殻は、頭からしっぽの先までの完全体です。200ｃｍぐらいあります。ビックリ！



10月14日に、町シルバー人材センターさんの清掃奉仕（シルバー環境美化の日）として、小学校周辺の除草やゴミ拾いをしていただきました。
運動会を気持ちよく開催できます。ありがとうございました。



（左）大勢の児童が県パズルに挑戦しています。あんずさんのタイムは古いデータで、日々更新中です。



（右）大谷翔平パズルは大変難しかったです。大谷翔平パズルは、２度目の挑戦が始まっています。









運動会練習（元気な声が聞こえてきそうです）



運動会練習と同時に図画工作科の作品づくりもすすめています。秋はスポーツ・芸術・読書・食欲･･･、子ども達も大忙しです。

10月31日(土)14時～町図書館で「ビブリオバトル」が開催されます。５年けんしんさん、６年ともかさんが出場します。観客100人がバトルの投票に参加します。是非、皆さん参加してください。

保護者ご家庭へ**大事なお願い**（詳細は、本日のお便りと許可証をご覧ください）

運動会のしおり（緑色）でもお知らせしましたように、借用予定の駐車場が１カ所使用できません（ハタチアマリヨツ店前広場）そのため、通常の授業参観のように「学校駐車場を１家庭に１台」使用できるようにいたします。本日配布しました「番号入りの使用許可証」を外から見えるように提示してください。２台目以降は、指定の駐車場へ駐車してください。

喫煙マナー等、お互いに気持ちよく観覧できますようご協力をお願いいたします。

さぁいよいよ、運動会!!